

World Watching 291

ワールド・ウォッチング



大竹 敏生

国土交通省産業港湾課国際企画室
国際調整官



はじめに

2024年4月、PIANC（国際航路協会）のCONGRESS（国際航路会議）が南アフリカ共和国で開催された際に、ケープタウン港を視察する機会があったので紹介する。本件は2回に分けて報告し、今回はケープタウン港の歴史と南アフリカの港湾運営を中心に報告する。

南アフリカの面積は122万km²で日本の約3.2倍であるが、人口は6,060万人（2022年）と日本の約半分程度である。また南アフリカは、白金、クロム、チタン等の鉱物資源は世界第1位の生産量を誇り、主要輸出品目になっている。輸出の主要貿易相手国の1つとして日本があり、主に非鉄金属を日本に輸出している。南アフリカの首都機能は3都市に分散しており、今回視察したケープタウンは立法府が置かれる首都で、ヨハネスブルグに次いで2番目に大きい都市である。その他、行政府の首都はプレトリア、司法府の首都はブルームフォンテインである。



ケープタウン港の歴史

1652年にオランダ東インド会社の船舶への物資補給基地が建設されたのが始まりで、南アフリカ共和国の発祥の地としてマザー・シティとも呼ばれる。当時は、木製栈橋に船を停泊させ、貨物や乗客を陸に運搬していた。1870年には、防波堤やドライドック等を含む港が完成した。1867年に内陸部でダイヤモンドが発見されたこともあり、ケープタウンへの入港船舶数が増加し、港が手狭になったことか



写真1 1898年の港拡張工事（写真中央部は既に開発されていた港湾）



図1 南アフリカの港湾・都市

南アフリカ [I] ケープタウン港の歴史と 南アフリカの港湾運営

ら、写真1のように、海側へ港が拡張された。

1910年には、「南アフリカ連邦」として独立し、南アフリカ鉄道・港湾庁（SAR&H^①）が設立された。1970年代になると、SAR&Hは再編成されることが政府合意された。この結果、1981年には、鉄道・港湾だけでなく、道路輸送・航空・パイプライン事業部門も含めた南アフリカ輸送サービス（SATS^②）が新設された。そして、1990年には政府100%出資の会社として、インフラ管理を行うTransnet SOC^③社が設立された。その後、2005年に港湾法が制定され、港湾庁（TNPA^④）とターミナル運営社（TPT^⑤）がそれぞれ設立された。



南アフリカの港湾運営

Transnet社は、南アフリカの物流インフラ（港湾・鉄道・パイプライン）を所有しており、効率的な物流システムの提供、経済成長のサポート、インフラの安定供給の確保を使命としている。

同社港湾部門である港湾庁（TNPA）は、2,798kmの海岸線にある8つの港湾及びその16のターミナルを管理・運営している（図1参照）。主要な業務は、①港湾内の土地利用管理、②インフラの計画・整備・維持、③安全・安心な航行管理規則、④港湾施設等の契約・免許発行、⑤港湾利用者への適切・安価・公平・効率的な港湾サービスの提供、⑥港湾サービス・施設への公正かつ分かりやすいアクセス、⑦関係者調整の7つである。TNPAは、地主型港湾（Landlord Port）としてインフラ整備や港湾利用の規制を行っているが、日本では通常民間が提供するタグや綱取り等の海事サービスも自社で実施していることから、部分的にはサービス型港湾（Service Port）ともいえる。

ターミナルのオペレーションについては、TPTが民間オペレーター等とも分担し、港湾経営の効率化を図ったことから、南アフリカの輸出入商品のほとんどは、8つの物流港で取り扱われるようになったと考えられる。

TNPAは海事サービスとして、具体的には、①パイロットボート等の船舶保有、②安全かつ効率的な港内航行に貢献する水先案内人の提供、③灯台設置等によ

2020年	2021年	2022年	2023年	2023年目標
4,788百万ランド (401億円)	3,651百万ランド (306億円)	4,208百万ランド (352億円)	5,907百万ランド (494億円)	4,330百万ランド (362億円)

図2 TPT社 EBITDA推移 (1ランド≒8.37円 (2024年6月レート))

	コンテナ総取扱量 (千TEU)	RO-RO船取扱量 (千GT)	総バルク貨物量 (①+②+③) (千トン)	①ドライバルク (千トン)	②液体バルク (千トン)	③ブレイクバルク (千トン)
西側						
①モッセルベイ	-	-	1,303	-	1,289	14
②ケープタウン	778	60	4,994	905	3,620	468
③サルダニヤ	-	95	63,519	58,859	4,226	434
中央						
④イースト・ロンドン	50	4,682	1,528	295	1,220	13
⑤ンクラ	584		6,035	5,307	698	30
⑥ポートエリザベス	158	4,567	11,509	10,065	1,087	358
東側						
⑦リチャーズベイ	0.2	-	77,825	74,207	2,661	957
⑧ダーバン	2,544	14,482	43,984	16,341	23,743	3,900
計	4,114	23,886	210,697	165,978	38,544	6,175

図3 南アフリカ各港の取扱貨物量 (2023年) ①ドライバルク：穀物や鉱石など梱包されず大量に輸送される貨物。
②液体バルク：石油製品・化学製品・植物油など梱包されず大量に輸送される貨物。
③ブレイクバルク：鉱石類などの重量貨物、木材・鋼材などの長尺貨物、袋詰め貨物。

る船舶航行支援、④浚渫工事や水路測量等を実施している。

財務状況については、EBITDA^⑥ (償却前営業利益)の動向を図2に示す。2020年実績から増加傾向にあるとともに、2023年の実績値は同年目標値を大幅に上回っていることが分かる。経営的には良好に見えるが、インフラ投資が不十分なこと等が課題となっており、今後は、ターミナルの処理能力向上のための多大な投資が必要となろう。



南アフリカの各港の特徴

図3の通り、南アフリカは、西側・中央・東側の3地域に分けられ、TNPAの港湾は各地域に2～3港ずつある。コンテナについては、ダーバン (⑧) が国内最大の取扱港で、名古屋港のコンテナ取扱貨物量と同等な規模である。ダーバンは完成車、木材・鉄鋼や小麦・トウモロコシなどのバルク貨物も多く取り扱っている。国内第2位のケープタウン (②) は、リーファーコンテナ等の生鮮食品・冷凍品を取り扱うだけでなく、木材・鉄鋼・セメント等も主要輸出品目になっている。国内第3位のンクラ (⑤) は、2009年設立の最も新しい港で、現在、コンテナ積替えのハブ的役割を担っており、順次サービスを拡大しているところである。将来的にはマンガン輸出や液化天然ガスの輸入の拠点になる見込みである。RO-RO船取扱量については、主に完成車であるが、ダーバンだけでなく、中央地域のイースト・ロンドン (④)、ポートエリザベス (⑥) も中心となっている。バルク貨物については、ドライバルク国内取扱量第1位のリチャーズベイ (⑦) は、国内最大の石炭輸出港である。ドライ・液体ともに国内第2位のサルダニヤ (③) は、鉄鉱石の輸出と原油の輸入が中心である。



南アフリカ港湾の今後の開発事業

Transnet社は、国内の更なる経済発展を見据え、財政的・環境的に持続可能でスマートな港湾システムを目指しており、各港で中長期的なプロジェクトを検討している。特に東側地域の整備に重点を置いていて、リチャーズベイはドライバルクハブかつ液化天然ガスターミナ

ル、ダーバンはコンテナハブかつ高級自動車の貿易ターミナルに向けて、30ほどのプロジェクトが進んでいる。また、西側地域のケープタウン港は陸側のターミナル容量に制約がある。そのため、RTG等の設備更新等を実施することで、操業停止・トラック作業の時間等削減を行い、コンテナ処理効率向上の検討をしている。

今年6月に、世界銀行は「コンテナパフォーマンス指数 (CPPI^⑦)」の第4版 (2023年版) を公表した。このCPPIは、昨年、最低24回のコンテナ船寄港があった世界の405港を比較したもので、南アフリカでは、ケープタウン、ンクラ、ポートエリザベス、ダーバンの4港湾が対象となり、ンクラ港が404位、ケープタウン港が405位と最下位グループになる結果であった。各港は、コンテナ港の船舶待ち時間やバース利用率が相対的に高く、非常に混雑している。さらに、最下位のケープタウン港においては、トラック渋滞やうねり等の自然条件も課題である。

また、南アフリカの港湾の非効率性は、2023年に危機的状況に達したことから、同年6月には国家物流危機委員会 (NLCC^⑧) が設立された。また、同年12月にはロードマップが策定され、当面は物流システムの効率低下を食い止めることとしている。NLCCの活動は今後も継続される見込みで、貨物部門は今後2年で変革の兆しが現れるとしている。



まとめ

南アフリカの港整備の起源は17世紀に遡り、長い年月を経て変化し、国内の日常生活を支える等、重要な役割を果たしてきたといえる。しかし、深刻な港湾の混雑やコンテナターミナルの低い生産性が課題であり、その抜本的な改善に向けた取り組みが期待される。今回は、ケープタウン港のコンテナターミナルとウォーターフロントにフォーカスを当てて、紹介する。

- 1) South African Railways and Harbours
- 2) South African Transport Services
- 3) Transnet State-Owned Company
- 4) Transnet National Ports Authority
- 5) Transnet Port Terminals
- 6) Earnings Before Interest Taxes Depreciation and Amortization
- 7) Container Port Performance Index
- 8) National Logistics Crisis Committee